日時　：１０月２９日
　　１３：００～１３：５０
場所　：１年Ｃ組教室
授業者：中木　いず美

第１学年Ｃ組　社会科学習指導案

（１）単元名　「古代までの日本」　～日本列島の誕生と大陸の交流～

（２）ねらい

全国で唯一，飛騨だけが庸・調を免除された理由を考える活動を通して，飛騨の人々には木工に関する高い技術力があったことや過酷な労働環境の中でも懸命に都づくりのために働いていたことに気付き，万葉集の和歌を手掛かりにして，当時の飛騨人の匠たちのひたむきな思いに触れ，飛騨の匠たちに誇りを持ちながらも、当時の人々の労働が過酷だったことがわかる。

（３）本時における社会科で目指す生徒の姿

・様々な視点から資料を読み取り、複数の資料をつなげながら自分の考えをよりよくしていく姿。
・飛騨の匠たちのひたむきな思いに触れることで、自分の生き方とつなげながら自己を振り返る姿。

（４）展開(第６時/全１１時)

過程	学習活動	研究内容に関わって
課題設定 社会的な見方考え方を働かせた考察 認識を深める 自己の学びを振り返	○養老２年に制定された養老令を見て課題の確認を行う。 どうして全国で飛騨だけが調・庸の代わりに匠丁を出せと言われたのだろう。 ○予想を立てる。 ・飛騨は貧乏な土地だったから。　・特産品がなかったから。 ・飛騨の人たちが木工の加工が得意だったから。 ○資料から追究を行い、全体交流を行う。 【匠が残したもの】 （事実） ・とても重要な建物 ・行ったことあるくらい有名なものが多い。 ・今も残っているもの （分析） ・代わりがいないほど飛騨の大工の人々の技術力が高かった。 ・後世に残るように、その技術は正確なものだ。 【仕事ぶり】 （事実） ・１４日間もかけて都に出向いている。 ・都で３５０日も働く。 ・飛騨の匠の民話 （分析） ・３５０日も働くなんて、とても過酷な労働を強いられた。 ・仕事の技術に高さと誠実さがある。 【木工寮と国分尼寺】 （事実） ・国づくりの大事な部署に飛騨の人たちがいる。 ・都に建築物を建てる前に飛騨に立派な建築物がある。 （分析） ・それだけ木に対する知識や扱い方が都のほかの人たちよりもあった。 ・飛騨の建築技術はとても進んでいて、だからその技を都で活用してほしいと思った。 誰もまねできないような高い技術　仕事のひたむきさ　後世に残るほどのもの **飛騨の人々が調・庸を免除されていたのは，都づくりという一大国家事業を行う中で、ほかの地域ではまねができないような高い技術力と仕事に対して丁寧に向い、朝廷からも必要とされる人材だった。一方でその労働は、非常に過酷なものだった。** ○深めの発問を行う。 萬葉集（最古の歌集）に載っているものを紹介する。万葉集は、飛鳥～奈良時代にかけて詠まれたいろいろな立場の人々の歌が載っている。 『かにかくに　物は思はず　飛騨人の　打つ墨縄の　ただ一道に』 飛騨の人たちが打つ墨縄による直線（木材に墨でつける目印）は、まさに人の手によるものとは思われないほどに高度で、正確な技術力であり、そのことを比喩表現で使いながら読んだ歌。 ・比喩表現で使われるということは、その事実が一般的に、広く知られていることである証拠である。つまり、それほど飛騨の人々の技術力が素晴らしいものであったということ。 ○本時の授業で学んだことをまとめる。 視点１「課題解決の視点」 視点２「飛騨の匠に関する思いの視点」 【視点１】飛騨の人々が庸・調を免除されたのは、他ではまねができないような高い技術力と仕事に対して、ひたむきに向き合い、工夫して丁寧に仕事をしていたからだ。**仕事ぶりについて道具の工夫からも記述できている。　【A】十分満足できる** 【視点２】飛騨の人々は、比喩表現にされるほど、世の中にその技術力の高さが浸透していた。それほどの技術集団だった人々が飛騨の地にいたことを誇りに思う。**多面的に考察して、学習して自分の思いを持つことができている。** **【A】十分満足できる**	**【研究内容１―②】** ・飛騨からの匠丁挑発に関する制定（養老令）の一文 **【研究内容１―③】** ・資料の内容や配布方法を工夫することで，生徒自身に追究方法を選択させ，学ぶ意欲を高め，個別最適な学びを保障する。 ・事実しか抜き出せていない生徒には，そこからどう分析したのか，「～ということは」を合言葉に深めていけるように、声をかけていく。 **【研究内容１―②】** ・深めの発問をすることで，当時の飛騨の人々の仕事ぶりが、周りの人も高く評価するくらいの仕事ぶりだったことを知り、飛騨人への思いをさらに深める。 ・ノートに課題解決のための資料から抜き出した事実とそこから考えた自分の分析を矢印で分けて書くようにする。事実からの矢印が増えていくことで、思考の深まりを生徒が実感できるようにする。 **【研究内容２―①】** ・机間指導の際に，ノートに記述してある考えを把握することで，生徒の理解度を把握する。 **【研究内容２―②】** ・資料を読み取りながら、さらに自分なりに疑問をもち、さらに深堀している姿を全体に広める。 ・多くの資料の事実をつなげながら、何が分かったのか、自分なりにキーワードを見つけ出している子を位置付ける。 **【評価規準】** **思考・判断・表現** 飛騨の人々がなぜ庸・調を免除されたのかを学習したことからまとめることができる。さらに萬葉の和歌から感じたことから飛騨への誇りを書くことができる。 **【評価方法】** ノート記述・発言・行動観察